

みかい

安住院便り
(第11号)

平成15年8月1日発行

〒703-8236

岡山市国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

懺悔文

皆さん、お看經の初めに懺悔文を読みます。懺悔とは一般的には(ザンゲ)ですが、仏教では(サンゲ)と言います。

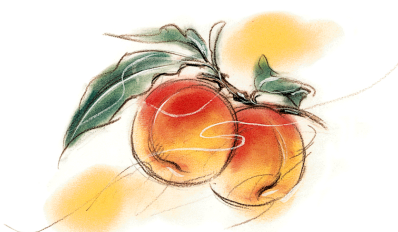
「私達が行ってしまふ悪い行為は、心の中にある欲望と怒りと無智により引き起こされ、悪い言葉や動作や気持ちに現れるのです。今ここで全てを懺悔しましょう。」

という意味なのです。昔、(反省だけなら猿でも出来る)と、猿に失礼な言葉が流行りましたが、反省するということは、どう言うことなのか、その態度が重要なのです。

人間この世で生きている中で、悪いことを犯してしまいます。法律に触れなくても、また知らず知らずに、他人を傷つけているという事も多いはず。感情的になり、つい余計なことを言ったり、ムシヤクシヤしている気持ちを身近な物にぶつけてしまう。

ですから、お経をお唱えする前には、心を静め手を合わせ、それらの行いを反省することから始めるのです。そうでないと、決して仏様の大切な教えを受け入れられる訳がないのです。毎日お看經をお唱えする場合でも、まず反省し心を清らかにする。その心が非常に重要なのです。

最近、キレルという言葉をよく耳にします。特に子供がキレテとんでもない事をしてしまう。などと話題になります。感情を抑えられないとも言われますが、何故そのような事をしてしまうのか、本人は分からないのではないのでしょうか。反省しているように見えても、何がどうしてどの様に悪いのかと深く考えることもなく、再び同じような事を繰り返す。また、知らないということも悪いことなのです。知らないから許される、ということなどありません。自分のこと、他人のことを理解するということとは、相手を思いやる気持ちを育て、生きるということとは何かを考えることになるのです。



し、世間や他人に責任を転嫁するのでは問題が解決しません。生きていくのは、あくまであなた自身なのです。自分の中の悪い点を反省し、何故なのかをよく理解し考え、次のステップに進むべきなのです。急ぐ必要はありません。

一切我今皆懺悔

みかい霊園完成

当院の本堂の西（法明）と南側（蓮華）の地に霊園が完成致しました。既に墓石が建立されている場所もあります。以前は廃屋があり、防災上も景観上からも問題が指摘されていた。総代さんや業者と検討を重ね、やっとの思いで完成に漕ぎ着けた次第です。これからの霊園ということで、成るべく平面に配置しお参りし易くと考え、また駐車場も整備しました。



瓶井の谷で、静かにお祀りされることを御祈念致します。

天平の薨（いらか）

七月三日、岡山市民会館にて、前進座の全国公演「天平の薨」が開催されました

井上靖原作で、奈良の唐招提寺を建立された鑑真和尚の物語です。度重なる失敗で目を不自由にされながら、苦勞して日本に仏教の戒律を伝えた偉大なる高僧と、その実現に生涯を掛けた日本の青年僧に感銘を受けた方も多いのではと思われまふ。

仏教というものは、いくら数多くの本を読んでも、自分一人ですべて悟ることは出来ません。優れたお師匠さんから教えを授けて頂くのが重要なのです。決して難しい教えではありません。仏様を信じる心を授かるのですから。善い人と巡り会える。このことが人生の上でも特別の意味を持つのです。暗い世の中ですが、清々しい感動を胸にした一日でした。

西国三十三ヶ所霊場巡り

昨年十月十六日、十七日、西国三十三ヶ所霊場の第二回目を巡拝しました。

第四番槇尾寺から第九番興福寺南円堂まで奈良方面の七ヶ寺と室生寺を参拝しました。名古刹が数多く、各寺でその風格を充分味わいました。

室生寺は女人高野として知られるお寺です。倒木被害を受けた国宝の五重塔も修復が終わって、山全体境内としての風情を感じました。

槇尾寺では、険しい山道を四〇分以上かかりましたが、半数ほどの方が元気に本堂まで登り、深山霊谷の札所を実感されたのではと思います。石楠花やボタンで有名な寺も多いのですが、定期的に少し外れていたため、一ヶ寺毎ゆつくりお勤めが出来き、観音様との素晴らしい御縁を頂きました。是非、多くの方にこの札所巡りを味わってもらいたいものです。



次の予定は、十月七日（火）・八日（水）ですので、皆様宜しくお願い致します。